

## 平成30年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校では、(1)知性の向上、(2)品性の向上、(3)信頼される学校づくりの3つの観点から重点目標を設定し、学校経営に係る課題に取り組んだ。

- (1) 知性の向上に関しては、生徒の学習活動及び教員の授業改善の両面から取り組んだ。前者は、生徒の学習の基礎・基本の定着及び生徒個々の主体的な学習態度の育成を目指した。後者は、教員の活動として「主体的で対話的な深い学び」の研修と実践の取り組みを進めた。この結果、前者では、教科や学科が行う小テストや資格検定指導等が生徒の達成感や自信に繋がるという点では、有効であった。しかし、授業アンケートによると、生徒は授業をわかりやすいと感じる一方で、達成感を感じる割合は低いという結果になった。短期記憶の詰め込み型学習に頼る生徒の学習意識の改善は必要である。  
後者では、今年度、「新たな学び創造事業」の拠点校の一つとして、「対話的で深い学び」について検討する機会を積極的に実践した。加えて、生徒の「言語技術」の向上に特化したモデル授業を講師が実践し校内研修を行った。その方策の一つとして、「なぜそう思うのか」との問いに、生徒が論理的に考え説明できるよう働きかけていくそのモデル授業は、大いに参考になった。また生徒の「言語技術」の向上には、教員による深い知識の蓄積を裏付けとし、それを授業改善に繋げようとする意欲と工夫が問われることも併せて認識できた。
- (2) 品性の向上に関しては、基本的な生活習慣の確立と自律意識及び自己有用感の育成を目指した。ルール、マナーに関する生徒の意識調査では、昨年度よりも意識の低下がみられた。特に遵法においては、学年が上がるほど意識が甘くなる生徒が一部に見受けられた。家庭の協力を得ながら、生徒と個々の面談を実施及び全体の集会等を利用し、自律意識を伴った社会性について生徒自身が深く考え自己を振り返る機会を持つよう努めた。
- (3) 信頼される学校づくりに関しては、家庭や地域とのより良い連携の推進を目指した。例えば「HIMI学」等の学習活動や学科の課題研究、部活動、ボランティア活動等を通して地域との連携を深めた。重点目標に設定したボランティア活動への参加者数は、生徒会執行部、学科、学年、部活動を中心に毎年参加者は増加している。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

今後、進路実現のために学びの取り組みや特別活動の実践を、生徒が自分の言葉で表現し、記録、蓄積していくことが求められている。生徒の主体性及び表現力・思考力等の育成はますます重要となる。現行の「HIMI学」や探究活動の発表の機会をさらに充実させるために、発表者及び聞き手の双方に主体的な参加となるよう評価表の内容等に工夫を図りたい。また、授業や学校行事に係るアンケート結果を生徒にフィードバックし、生徒自身に課題意識を持たせ討論等を活用するには、ホームルーム活動の再考が必要となる。また生徒の「言語技術」の育成は必須であり、その方策の一つとして読書指導の工夫があげられる。併せて「言語技術」の習得に繋がる授業改善の検討を継続して進めたいと考える。

8. 学校アクションプラン

平成30年度 氷見高校アクションプラン - 1 -							
重点項目	学習活動（生徒の授業に対する意欲および家庭学習への意欲の醸成）						
重点課題	向学心や社会的実践力を高めるための授業の受け方や家庭学習のあり方						
現 状	授業について	1年普	2年普	3年普	1年専	2年専	3年専
	わかりやすい	122(76%)	122(76%)	125(80%)	69(58%)	87(73%)	93(78%)
	わかりにくい	34	27	25	25	19	24
	昨年、「授業がわかりやすいか」を生徒に尋ねた結果は、上の表（4段階で回答、うち上位2項目と下位2項目の合計人数）のようであった。また、やる気がでる授業についてその理由を尋ねたところ、下記の表の回答を得た。（9項目のうち3つ回答可能の人数合計、及び最も多い項目と最も少ない項目の%）						
	やる気が出る授業	1年普	2年普	3年普	1年専	2年専	3年専
	知的好奇心	35	33(22%)	36	24(21%)	30	24
将来に有効	29(18%)	55	67	38	42(39%)	39	
達成感有り	89(56%)	65(43%)	68(44%)	61(53%)	38	60(50%)	
内容が深い	58	39	19(12%)	35	22(20%)	19(16%)	
達成目標	① 授業に対するアンケートで、「知的好奇心」、「学習を将来に生かす」、「学習に対する達成感」、「粘りの学習姿勢」の項目について、1学期と2学期に、学習時間と合わせて調査を行う。特に「学習に対する達成感」60%以上として生徒の意識の前向きな変容を支援する。 ② 定期考査期間の学習時間調査に対し 1時間未満の生徒 普5%未満、 専門30%未満 3時間以上の生徒 普35%以上、 専門10%以上 ③ 専門学科検定合格状況 農:卒業時一人当たり取得検定平均7種目以上、 ビジネス:全商検定1級合格者延べ100名以上、 生活福祉:家庭科技術検定1級合格者延べ50名以上						
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業時間（授業回数や正味時間）を確保し、適切な分量の課題や意欲付けを工夫する。</li> <li>学習に関する調査を定期的実施し、学びの姿勢を生徒自身が自己評価し振り返る。</li> <li>小テストの取り組みを継続する。</li> <li>マスタリー教材を活用する。</li> <li>学習時間の記録や評価を、生徒が主体的に実施するよう工夫し、そのデータを保護者と共有し共通理解をはかるようにする。</li> <li>学習時間が向上している生徒には、個別の添削指導や発展的な学習を行うアドバンス倶楽部等を活用させ、高い志や進路目標等を支援する。</li> </ul>						
達 成 度	① 小テスト、考査、授業のプリントなどで、達成感を感じる生徒の割合 29%（普 29% 専門 29%） 昨年と比較して数値が高かった回答 ・丁寧な教え方だと感じる（昨年 22% 今年 33%） ・説明だけではなく、学習活動の時間も多と感じる（昨年 9% 今年 21%） ・効果的に授業プリントが使用されている（昨年 11% 今年 21%） ② 普 1時間未満5%未満は、1年と3年で達成 3時間以上35%以上は、全ての学年で達成 専門 1時間未満30%は、1年と3年で達成 3時間以上10%以上は、全ての学年で達成 ③ 農業科学 平均 7.74 種目 ビジネス 延べ人数 134名 生活福祉 延べ人数 54名 いずれの学科も昨年実績を越え、目標を上回った。						
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期末および2学期末考査の最終日に、考査期間の学習状況や授業に対する姿勢を振り返るアンケート調査を実施し、生徒の実態の把握を行った。</li> <li>週末課題の分量を、調整したり長期間の学習計画を設定する取り組みを実施した。また、マスタリー教材の意味と利用方法について説明した。（1年）</li> <li>毎週の小テストを継続して実施した。（全学年）</li> <li>考査に対する計画表および実施状況調査は普通科では全ての学年で取り組んだ。1年生では、ノート作成や計画表などで、優れたものを掲示するなどの工夫がみられた。</li> <li>アドバンス倶楽部クラブについては、大学訪問研修を復活し先進的な探究活動事例の見学を含め実施した。（関西方面）</li> </ul>						
評 価	① D ・今年度学習の達成感を60%に設定したが、結果は29%であり、昨年を16%も下回り評価をDとする。減少の理由の一つにアンケートの実施時期の影響もあると思われる。 ・新しい学びの活動に対する生徒の反応が高くなってきている結果が出ており、その面はプラスと捉えたい。 ② B ③ A ・②については一部を除いて達成され、昨年よりも考査に向けての学習時間の向上が確認されたのでBとした。 ・③については、農業科学科およびビジネス科、生活福祉科において、目標を達成した。						
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業がわかりやすいと感じているのに達成感を感じる生徒の割合が29%であることの原因究明が必要である。</li> <li>主体的対話的な深い学びには、生徒が課題意識を持って取り組むことが大切である。授業に対するアンケート結果を生徒にフィードバックし、生徒自身に考えさせ今後の学習に活かすようにしてほしい。</li> </ul>						
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校は、小テスト等の積み重ねによるスモールステップを重視してきた。一方で、近年は読解力や協働による学びが推進されている。今後これらの調整を図る方策の検討も必要になると考える。</li> <li>検定試験に対する生徒の取り組み状況は、昨年度と比較しても、生徒の努力が継続していると考えられる。今後も生徒の学習状況を把握し、各学科の特色を生かした学びを推進していきたい。</li> </ul>						

A 達成した B ほぼ達成した C 現状維持 D 現状より悪くなった

(様式 5)

8. 学校アクションプラン

平成30年度 氷見高校アクションプラン - 2 -							
重点項目	教科実践 (教員の活動)						
重点課題	「新しい学び」への準備と実践						
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度は、各教科部会で、「主体的で対話的な深い学び」の実践について意見交換を行った。一方、「対話的な学び」を「深い学び」とする手立ては、具体的なイメージがつかみにくい状況だった。</li> <li>・他校では、タブレット端末の導入が進んでおり、本校への導入時期も近づいている。</li> <li>・新学習指導要領 (平成34年4月施行) の移行期間が平成31年4月から始まるとの公示があり、カリキュラムマネジメントの必要性がいつそう高まっている。</li> <li>・今年度入学の1年生が受験する平成33年度大学入学者選抜は、英語4技能 (「読む」「書く」「聞く」「話す」) の能力を計る民間テストの導入と併用したものとなる。また、調査書は「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を項目別に明記する等、具体的な変更内容が予告されており、変化への対応の準備が求められる。</li> </ul>						
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 年度末までに、すべての教員が「主体的で対話的な深い学び」実現の授業改善に取り組み、それに係る新たな知見を手に入れる。</li> <li>② ICT活用への準備 (タブレット端末を使う授業研究) ができる。</li> <li>③ 新学習指導要領の教科・科目の内容変更への準備が進む。</li> <li>④ 英語4技能の育成と資格取得への基盤整備が進む。</li> <li>⑤ (平成33年度大学入学者選抜の新たなルールへの対応準備)</li> </ol> <p>* 目標の達成度については、教員へのアンケート・意見集約等により評価する。</p>						
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の互研授業で他教科の授業実践から学ぶことを目標に授業の参観を推進する。</li> <li>・今年度の学校訪問を利用し、「対話的な深い学び」の授業を試行する。また、「新たな学びの創造事業」の拠点校と授業改善の研究を進める。</li> <li>・ICT活用は、他校で進んでおり、教科部会を通じて先行事例を集め、共有化を図る。</li> <li>・新学習指導要領の説明会参加等を通し教科の変更を掴み全体で共有する機会を設ける。</li> <li>・英語4技能育成の重要性に関して職員会議や教育課程委員会等で情報共有を図る。</li> <li>・1学年は、PTA研修会(10月)で、保護者に最新の情報や準備状況を伝える。(平成33年度大学入学者選抜に関する情報を収集し、進路指導部等のマネジメントにより1学年生徒と保護者および全教員への周知を図るように努める。)</li> </ul>						
達 成 度	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 「主体的で対話的な深い学び」を目指す授業を取り入れている教員の割合 [生徒が質問し教員が応答する授業の実施84%、グループでの調査・実験等77%、生徒同士の表現活動 (発表等) 70%]</li> <li>② 「ICT活用への情報共有」全体会を2回実施</li> <li>③ 「新学習指導要領にかかる情報共有」全体会を1回、校外での教員研修参加延べ24人</li> <li>④ 英語4技能の育成と資格取得への基盤整備=GTEC 実施1回</li> <li>⑤ 平成33年度大学入学者選抜の新たなルールへの対応準備=各研修会の参加延べ3名。JAPAN e-portfolioの活用推進 (1学年)。</li> </ol>						
具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 学校訪問(7月9日)に「主体的で対話的な深い学び」の実現を目指した指定授業を各教科で実施した。互研授業週間(秋)に、互研授業と講評会(意見交換会)を教科横断的に実施した。</li> <li>② ICT活用への準備として、県内外の高校での実践例を集め、職員研修会を開き情報を共有した。研修会は7月と11月の2回実施した。</li> <li>③ 県教委主催の教育課程講習会で得た知見を教育課程委員会(12月)で共有した。また、新学習指導要領の趣旨を理解するための講習会等に積極的に教員を派遣した。【例:新たな学び創造事業研究推進会議(7月20日)12名参加ほか、大阪・高崎・東京の研修会へ延べ4名派遣等】</li> <li>④ 1年普 英語4技能検定GTEC(12月リーディング・ライティング・リスニング、1月スピーキング)</li> <li>⑤ 大学入学共通テストの制度設計や実施に係る研修会(大阪・高崎)へ延べ3名派遣。JAPAN e-portfolioの活用を1学年で進めた。</li> </ol>						
評 価	<table border="1"> <tr> <td>① C (対話的授業の実施が70~80%のため)</td> <td>② B</td> </tr> <tr> <td>③ B</td> <td>④ B</td> </tr> <tr> <td>⑤ B</td> <td></td> </tr> </table>	① C (対話的授業の実施が70~80%のため)	② B	③ B	④ B	⑤ B	
① C (対話的授業の実施が70~80%のため)	② B						
③ B	④ B						
⑤ B							
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領、大学入学者選抜の新ルール、英語4技能検定等、変化があり大変であろうが、他校に遅れないよう対応してほしい。</li> <li>・高校では対話的学び、深い学びは至難の業である。形態にとらわれず、わかることを大前提にして授業改善に取り組み一步一步前進してほしい。</li> </ul>						
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的で対話的な深い学び」には言語活動の充実が不可欠である。授業では、生徒の「言語技術」の向上を意識し、「なぜ?」と生徒に問い、論理的に考え説明ができる生徒の育成を目指したい。</li> <li>・「大学入試改革」の情報は、今後次々に出されると考えられる。ルール変更をチャンスとして捉え生徒のレベルアップにつなげられるよう対応を進めたい。</li> </ul>						

A 達成した B ほぼ達成した C 現状維持 D 現状より悪くなった

(様式 5)

## 8. 学校アクションプラン

平成30年度 氷見高校アクションプラン - 3 -					
重点項目	進路支援（進路支援力の向上）				
重点課題	進路意識向上への方策の推進				
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学試験や就職試験など、進路決定の方策に対する基礎的、基本的な知識が不足しており、進路意識が高まらない実態が各学年で見受けられる。保護者への進路情報の啓蒙にも力点を置く必要がある。</li> <li>進路を幅広い選択肢の中から選択できるよう進路指導部と各学年、各教科、各部との連携をより密にする必要がある。</li> <li>進路情報を共有するシステムについて検討し、系統的で効率的な進路指導の仕組みが求められる。またこれまで蓄積した進路指導のノウハウを蓄積できる体制の充実を図る必要がある。</li> </ul>				
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>① 1, 2年進路ホームルーム(年3回)、各学年保護者会(進路情報)の充実 ・ 進路情報に対する満足度 80%以上</td> <td>② 進路に対する「個人面接」、「進路講話」、「卒業生と語る会」等進路行事の充実 ・ 個人面接に対する満足度 70%以上</td> </tr> <tr> <td>③ 進路情報の共有システムの充実 ・ 進路情報の共有システムの取り組みを作成しその活用を促進する。</td> <td>④ 進路希望の実現(第3学年) ・ 進学希望者の国公立大学合格30人以上 ・ 就職希望者の就職内定率 100%</td> </tr> </table>	① 1, 2年進路ホームルーム(年3回)、各学年保護者会(進路情報)の充実 ・ 進路情報に対する満足度 80%以上	② 進路に対する「個人面接」、「進路講話」、「卒業生と語る会」等進路行事の充実 ・ 個人面接に対する満足度 70%以上	③ 進路情報の共有システムの充実 ・ 進路情報の共有システムの取り組みを作成しその活用を促進する。	④ 進路希望の実現(第3学年) ・ 進学希望者の国公立大学合格30人以上 ・ 就職希望者の就職内定率 100%
① 1, 2年進路ホームルーム(年3回)、各学年保護者会(進路情報)の充実 ・ 進路情報に対する満足度 80%以上	② 進路に対する「個人面接」、「進路講話」、「卒業生と語る会」等進路行事の充実 ・ 個人面接に対する満足度 70%以上				
③ 進路情報の共有システムの充実 ・ 進路情報の共有システムの取り組みを作成しその活用を促進する。	④ 進路希望の実現(第3学年) ・ 進学希望者の国公立大学合格30人以上 ・ 就職希望者の就職内定率 100%				
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路統一ホームルームを年3回実施し、指導内容の精選及び指導法について検討する。また、より効果的な系統指導プログラムを作成し個人面接に活用できるように工夫する。</li> <li>現行の進路指導に係る取り組みの改善点を活かすように進路行事を企画する。</li> <li>進路指導部が中心となり、進路指導について担任一人でかかえず定期的に学年全体で情報交換する時間設定等に努める。</li> <li>夏の休業期間中に進学希望の生徒や就職希望の生徒に対して、早めに進路の目標を持たせ、学校を活用した学習態勢が推進できるよう配慮して取り組む。</li> <li>現状に満足し発展的な学習への意欲が不足する生徒に対しては、自分の学習の深化や次の学習のステップを考えさせるように支援する。小論文及び面接の指導においては進路、第3学年及び全教職員との協力体制を軸に、学校全体が一丸となつての指導体制を継続する。</li> </ul>				
達 成 度	<table border="1"> <tr> <td>① 進路統一ホームルームを各学年、年間3回を計画し、実施分は概ね好評を得た。1学年では、主体性を評価するe-portfolioについての研修を行い、試行に入っている。 進路統一ホームルーム等に対する満足度調査結果 1年 92.7% 2年 87.0%</td> <td>② 進路に対する「個人面接」、「進路講話」、「卒業生と語る会」等の満足度調査を3月中旬に実施。 個人面接等に対する満足度調査結果 1年 93.9% 2年 94.6%</td> </tr> <tr> <td>③ ほぼ達成。推薦入試対策を大学の学部ごとに、指導法及び対策をまとめデータ化できた。また、昨年度生徒の成績推移、受験結果等をデータとしてまとめた。</td> <td>④ 国公立大学合格30人以上は、状況的に厳しい状態となった。推薦入試による合格者は12名で例年並みとなっている。就職希望者の内定率は100%を達成した。</td> </tr> </table>	① 進路統一ホームルームを各学年、年間3回を計画し、実施分は概ね好評を得た。1学年では、主体性を評価するe-portfolioについての研修を行い、試行に入っている。 進路統一ホームルーム等に対する満足度調査結果 1年 92.7% 2年 87.0%	② 進路に対する「個人面接」、「進路講話」、「卒業生と語る会」等の満足度調査を3月中旬に実施。 個人面接等に対する満足度調査結果 1年 93.9% 2年 94.6%	③ ほぼ達成。推薦入試対策を大学の学部ごとに、指導法及び対策をまとめデータ化できた。また、昨年度生徒の成績推移、受験結果等をデータとしてまとめた。	④ 国公立大学合格30人以上は、状況的に厳しい状態となった。推薦入試による合格者は12名で例年並みとなっている。就職希望者の内定率は100%を達成した。
① 進路統一ホームルームを各学年、年間3回を計画し、実施分は概ね好評を得た。1学年では、主体性を評価するe-portfolioについての研修を行い、試行に入っている。 進路統一ホームルーム等に対する満足度調査結果 1年 92.7% 2年 87.0%	② 進路に対する「個人面接」、「進路講話」、「卒業生と語る会」等の満足度調査を3月中旬に実施。 個人面接等に対する満足度調査結果 1年 93.9% 2年 94.6%				
③ ほぼ達成。推薦入試対策を大学の学部ごとに、指導法及び対策をまとめデータ化できた。また、昨年度生徒の成績推移、受験結果等をデータとしてまとめた。	④ 国公立大学合格30人以上は、状況的に厳しい状態となった。推薦入試による合格者は12名で例年並みとなっている。就職希望者の内定率は100%を達成した。				
具体的な取組状況	<table border="1"> <tr> <td>① 進路に関する統一ホームルームを1, 2学年で一斉実施し、進路意識を高めた。進路と学年で協議し、それぞれの時期に必要な進路プログラムを検討した。</td> <td>② 個人面接は各担任で、進路講話は学年、進路指導部で講師の人材選定などを行い、より効果が上がる工夫した。</td> </tr> <tr> <td>③ 昨年度卒業生の成績データファイルを作成し、進路指導に活かすための基礎資料化を図るデータを収集した。今年度のセンター試験終了後の進路検討会で参考活用した。</td> <td>④ これまでの推薦入試のノウハウを維持、発展させるため、年度当初に入試のノウハウをデータ化した。 就職希望者に対して、各個人々に対する志望と特性にきめ細かく配慮し、就職希望者全員の志望先の合格を獲得した。</td> </tr> </table>	① 進路に関する統一ホームルームを1, 2学年で一斉実施し、進路意識を高めた。進路と学年で協議し、それぞれの時期に必要な進路プログラムを検討した。	② 個人面接は各担任で、進路講話は学年、進路指導部で講師の人材選定などを行い、より効果が上がる工夫した。	③ 昨年度卒業生の成績データファイルを作成し、進路指導に活かすための基礎資料化を図るデータを収集した。今年度のセンター試験終了後の進路検討会で参考活用した。	④ これまでの推薦入試のノウハウを維持、発展させるため、年度当初に入試のノウハウをデータ化した。 就職希望者に対して、各個人々に対する志望と特性にきめ細かく配慮し、就職希望者全員の志望先の合格を獲得した。
① 進路に関する統一ホームルームを1, 2学年で一斉実施し、進路意識を高めた。進路と学年で協議し、それぞれの時期に必要な進路プログラムを検討した。	② 個人面接は各担任で、進路講話は学年、進路指導部で講師の人材選定などを行い、より効果が上がる工夫した。				
③ 昨年度卒業生の成績データファイルを作成し、進路指導に活かすための基礎資料化を図るデータを収集した。今年度のセンター試験終了後の進路検討会で参考活用した。	④ これまでの推薦入試のノウハウを維持、発展させるため、年度当初に入試のノウハウをデータ化した。 就職希望者に対して、各個人々に対する志望と特性にきめ細かく配慮し、就職希望者全員の志望先の合格を獲得した。				
評 価	<table border="1"> <tr> <td>① A</td> <td>② A</td> </tr> <tr> <td>③ B</td> <td>④ C</td> </tr> </table>	① A	② A	③ B	④ C
① A	② A				
③ B	④ C				
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>1, 2年次の早い段階で、生徒各自の学びへの取り組みを記録、蓄積し、生徒が学びの意欲を持って進路実現できるような支援を早急に工夫してほしい。</li> <li>進学することだけが目的となると、進学後の目的を生徒は喪失してしまう。生徒自身が何を目的として進学し、その為に今は何をどうしたいのかが明確にできるようにしてほしい。</li> </ul>				
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体性を評価するためのe-portfolioを学校全体の仕組みとして、どのように展開していくかその運営システムを確立することが求められる。</li> <li>生徒が、受験情報を系統的に整理する過程で、生徒と共有を図り指導法を検討する。</li> <li>生徒が主体的に進路情報を獲得しようとする態度をいかに身につけさせるかについて検討する。</li> <li>新学習指導要領に対応する調査書の検討を図る。</li> </ul>				

A 達成した B ほぼ達成した C 現状維持 D 現状より悪くなった

(様式 5)

8. 学校アクションプラン

平成30年度 氷見高校アクションプラン - 4 -					
重点項目	学校生活 (心身ともに健康で充実した高校生活)				
重点課題	品性の向上と自律意識及び自己有用感の育成				
現 状	<ul style="list-style-type: none"><li>さわやかな挨拶を交し合える学校を目指し、定期的に「あいさつ運動」を行っているが、意識して挨拶をしている生徒は90%に留まっている。</li><li>心身の不調を感じ自己有用感を持つことができずにいる生徒が若干見られる。また、制服の着こなしやJR等公共交通機関の乗降時や車内におけるマナーに関しても、一部には意識の低い生徒が見られる。</li><li>ペットボトル、空き缶、空き瓶と、可燃ゴミの分別が完全に行われていない。また、飲み残しがあるまま容器が出されていることもある。</li></ul>				
達成目標	<table border="1"><tr><td>① 挨拶・服装・交通マナー・乗車マナー等の規範意識の向上、他への思いやりの育成</td><td>② ゴミの分別徹底の意識率の向上</td></tr><tr><td><ul style="list-style-type: none"><li>生徒意識調査における挨拶・服装に係る意識率の向上 95%以上</li><li>自転車の鍵かけ率 100% (カギかけコンテスト)</li><li>人間関係の悩みや問題行動の早期把握。</li></ul></td><td><ul style="list-style-type: none"><li>生徒意識調査におけるゴミの分別に係る意識率の向上 95%以上</li></ul></td></tr></table>	① 挨拶・服装・交通マナー・乗車マナー等の規範意識の向上、他への思いやりの育成	② ゴミの分別徹底の意識率の向上	<ul style="list-style-type: none"><li>生徒意識調査における挨拶・服装に係る意識率の向上 95%以上</li><li>自転車の鍵かけ率 100% (カギかけコンテスト)</li><li>人間関係の悩みや問題行動の早期把握。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>生徒意識調査におけるゴミの分別に係る意識率の向上 95%以上</li></ul>
① 挨拶・服装・交通マナー・乗車マナー等の規範意識の向上、他への思いやりの育成	② ゴミの分別徹底の意識率の向上				
<ul style="list-style-type: none"><li>生徒意識調査における挨拶・服装に係る意識率の向上 95%以上</li><li>自転車の鍵かけ率 100% (カギかけコンテスト)</li><li>人間関係の悩みや問題行動の早期把握。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>生徒意識調査におけるゴミの分別に係る意識率の向上 95%以上</li></ul>				
方 策	<table border="1"><tr><td><ul style="list-style-type: none"><li>年2回の「さわやか運動」、毎月実施するクラス毎の「さわやかデイ」の取り組みで、活動場所や時間帯に工夫を加え実施する。</li><li>校風委員会及び交通委員会を中心に現状を把握し、「挨拶の励行」「交通安全 (自転車乗車マナー等)」「JR 等公共交通機関の乗車および乗降時のマナー」等の社会的マナーの向上に努める。</li><li>中学・高校を対象とする「自転車カギかけコンテスト」に参加する。</li><li>生徒集会で「命の尊重」を訴え、人間関係に関するアンケートを学期ごとに実施する。</li></ul></td><td><ul style="list-style-type: none"><li>年間5回のクリーンアップデーでゴミの分別を重点項目に取り上げ、生徒の意識を喚起する。</li><li>定期的に保健委員会が教室内のゴミの分別を全校生徒に呼びかける。</li><li>分別方法をわかりやすく図示したフローチャート (掲示物) を作成し、各クラスに掲示して知らせる。</li><li>分別の悪い場所 (体育館、各職員室、部活動) に対して、ゴミ箱の工夫や担当の先生方への説明など、具体的に個別の対策を立てる。</li></ul></td></tr></table>	<ul style="list-style-type: none"><li>年2回の「さわやか運動」、毎月実施するクラス毎の「さわやかデイ」の取り組みで、活動場所や時間帯に工夫を加え実施する。</li><li>校風委員会及び交通委員会を中心に現状を把握し、「挨拶の励行」「交通安全 (自転車乗車マナー等)」「JR 等公共交通機関の乗車および乗降時のマナー」等の社会的マナーの向上に努める。</li><li>中学・高校を対象とする「自転車カギかけコンテスト」に参加する。</li><li>生徒集会で「命の尊重」を訴え、人間関係に関するアンケートを学期ごとに実施する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>年間5回のクリーンアップデーでゴミの分別を重点項目に取り上げ、生徒の意識を喚起する。</li><li>定期的に保健委員会が教室内のゴミの分別を全校生徒に呼びかける。</li><li>分別方法をわかりやすく図示したフローチャート (掲示物) を作成し、各クラスに掲示して知らせる。</li><li>分別の悪い場所 (体育館、各職員室、部活動) に対して、ゴミ箱の工夫や担当の先生方への説明など、具体的に個別の対策を立てる。</li></ul>		
<ul style="list-style-type: none"><li>年2回の「さわやか運動」、毎月実施するクラス毎の「さわやかデイ」の取り組みで、活動場所や時間帯に工夫を加え実施する。</li><li>校風委員会及び交通委員会を中心に現状を把握し、「挨拶の励行」「交通安全 (自転車乗車マナー等)」「JR 等公共交通機関の乗車および乗降時のマナー」等の社会的マナーの向上に努める。</li><li>中学・高校を対象とする「自転車カギかけコンテスト」に参加する。</li><li>生徒集会で「命の尊重」を訴え、人間関係に関するアンケートを学期ごとに実施する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>年間5回のクリーンアップデーでゴミの分別を重点項目に取り上げ、生徒の意識を喚起する。</li><li>定期的に保健委員会が教室内のゴミの分別を全校生徒に呼びかける。</li><li>分別方法をわかりやすく図示したフローチャート (掲示物) を作成し、各クラスに掲示して知らせる。</li><li>分別の悪い場所 (体育館、各職員室、部活動) に対して、ゴミ箱の工夫や担当の先生方への説明など、具体的に個別の対策を立てる。</li></ul>				
達成度	<table border="1"><tr><td>① 生徒意識調査 (挨拶・友人) 74%     〃 (挨拶・来客、先生) 82%     ・生徒意識調査 (服装) 85%     ・生徒意識調査 (ルール・マナー) 89%     ・カギかけコンテスト 99% (優秀賞受賞)     ・学期ごとにいじめ等のアンケート実施。</td><td>② 生徒意識調査     「校内でゴミを分別している」 86%</td></tr></table>	① 生徒意識調査 (挨拶・友人) 74% 〃 (挨拶・来客、先生) 82% ・生徒意識調査 (服装) 85% ・生徒意識調査 (ルール・マナー) 89% ・カギかけコンテスト 99% (優秀賞受賞) ・学期ごとにいじめ等のアンケート実施。	② 生徒意識調査 「校内でゴミを分別している」 86%		
① 生徒意識調査 (挨拶・友人) 74% 〃 (挨拶・来客、先生) 82% ・生徒意識調査 (服装) 85% ・生徒意識調査 (ルール・マナー) 89% ・カギかけコンテスト 99% (優秀賞受賞) ・学期ごとにいじめ等のアンケート実施。	② 生徒意識調査 「校内でゴミを分別している」 86%				
具体的な取組状況	<table border="1"><tr><td><ul style="list-style-type: none"><li>さわやか運動へのPTA・関係機関・小中学校の協力体制が充実しており、一体感のある有意義な活動となった。校風委員の自主的な呼びかけなどが行われた。</li><li>高校生としての品位ある服装をめざし、校風委員会が自主的に呼びかけを行った。</li><li>交通安全教室の開催、氷見市交通安全大会参加や昼放送での乗車マナーの呼びかけを実施した。</li><li>アンケート結果に基づき集会ごとに「命の尊重」を訴えた。</li></ul></td><td><ul style="list-style-type: none"><li>クリーンアップデー (保健委員による清掃点検) や行全校集会で、ゴミの分別について具体的に注意を促した。</li><li>保健委員会で、ゴミの分別とリサイクル・環境保全の関係について調べ、高岡地区で発表した。この活動を通して、保健委員を中心に、生徒自身がゴミの分別の必要性を認識し、自主的に分別を心がけるように意識の向上を図った。</li><li>生徒に指導する立場の教員が、校内の分別ルールについて理解していない場合がある。したがって、分別方法をわかりやすく図示したフローチャートを作成し、共通理解を図った。</li></ul></td></tr></table>	<ul style="list-style-type: none"><li>さわやか運動へのPTA・関係機関・小中学校の協力体制が充実しており、一体感のある有意義な活動となった。校風委員の自主的な呼びかけなどが行われた。</li><li>高校生としての品位ある服装をめざし、校風委員会が自主的に呼びかけを行った。</li><li>交通安全教室の開催、氷見市交通安全大会参加や昼放送での乗車マナーの呼びかけを実施した。</li><li>アンケート結果に基づき集会ごとに「命の尊重」を訴えた。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>クリーンアップデー (保健委員による清掃点検) や行全校集会で、ゴミの分別について具体的に注意を促した。</li><li>保健委員会で、ゴミの分別とリサイクル・環境保全の関係について調べ、高岡地区で発表した。この活動を通して、保健委員を中心に、生徒自身がゴミの分別の必要性を認識し、自主的に分別を心がけるように意識の向上を図った。</li><li>生徒に指導する立場の教員が、校内の分別ルールについて理解していない場合がある。したがって、分別方法をわかりやすく図示したフローチャートを作成し、共通理解を図った。</li></ul>		
<ul style="list-style-type: none"><li>さわやか運動へのPTA・関係機関・小中学校の協力体制が充実しており、一体感のある有意義な活動となった。校風委員の自主的な呼びかけなどが行われた。</li><li>高校生としての品位ある服装をめざし、校風委員会が自主的に呼びかけを行った。</li><li>交通安全教室の開催、氷見市交通安全大会参加や昼放送での乗車マナーの呼びかけを実施した。</li><li>アンケート結果に基づき集会ごとに「命の尊重」を訴えた。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>クリーンアップデー (保健委員による清掃点検) や行全校集会で、ゴミの分別について具体的に注意を促した。</li><li>保健委員会で、ゴミの分別とリサイクル・環境保全の関係について調べ、高岡地区で発表した。この活動を通して、保健委員を中心に、生徒自身がゴミの分別の必要性を認識し、自主的に分別を心がけるように意識の向上を図った。</li><li>生徒に指導する立場の教員が、校内の分別ルールについて理解していない場合がある。したがって、分別方法をわかりやすく図示したフローチャートを作成し、共通理解を図った。</li></ul>				
評価	<table border="1"><tr><td>① D <ul style="list-style-type: none"><li>挨拶の意識は、学年が上がるごとに高まっている。</li><li>服装に対する意識は、各学年ほぼ同じである。</li><li>ルール、マナーについては、学年が上がるほど遵法意識の低下が見受けられる。</li></ul></td><td>② C <ul style="list-style-type: none"><li>毎日の実際の分別状況はおおむね良好である。しかし、まだ分別されていない場合もあるので、問題点をピックアップし、具体的に対策を講じている段階である。</li></ul></td></tr></table>	① D <ul style="list-style-type: none"><li>挨拶の意識は、学年が上がるごとに高まっている。</li><li>服装に対する意識は、各学年ほぼ同じである。</li><li>ルール、マナーについては、学年が上がるほど遵法意識の低下が見受けられる。</li></ul>	② C <ul style="list-style-type: none"><li>毎日の実際の分別状況はおおむね良好である。しかし、まだ分別されていない場合もあるので、問題点をピックアップし、具体的に対策を講じている段階である。</li></ul>		
① D <ul style="list-style-type: none"><li>挨拶の意識は、学年が上がるごとに高まっている。</li><li>服装に対する意識は、各学年ほぼ同じである。</li><li>ルール、マナーについては、学年が上がるほど遵法意識の低下が見受けられる。</li></ul>	② C <ul style="list-style-type: none"><li>毎日の実際の分別状況はおおむね良好である。しかし、まだ分別されていない場合もあるので、問題点をピックアップし、具体的に対策を講じている段階である。</li></ul>				
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"><li>ルール、マナーに対する生徒の意識が昨年よりも低下している。挨拶、服装等は、1年次から挺入れを回り意識の向上に努めてほしい。生徒の主体性や自律意識を育むために、生徒自身に現状の改善点やルールについて考えさせる場面や機会を工夫してはどうか。</li></ul>				
次年度へ向けての課題	<table border="1"><tr><td><ul style="list-style-type: none"><li>校舎内外において、活動週間だけでなく、年間を通してマナーアップ向上ができるよう、生徒の自律、自己有用感の向上を図ることが大切である。</li><li>家庭の協力を得ながら、品位ある服装やマナーの遵守を推進しなければならない。</li><li>保護者の送迎時の交通マナー及びスマートフォンの利用は、家庭の協力を求め対応を検討したい。</li></ul></td><td><ul style="list-style-type: none"><li>ゴミの分別が徹底されていない場所 (体育館、各職員室、部活動) に対して、ゴミ箱の仕分けの工夫や担当の先生方への説明等で具体的な個別の対策を立てる必要がある。</li></ul></td></tr></table>	<ul style="list-style-type: none"><li>校舎内外において、活動週間だけでなく、年間を通してマナーアップ向上ができるよう、生徒の自律、自己有用感の向上を図ることが大切である。</li><li>家庭の協力を得ながら、品位ある服装やマナーの遵守を推進しなければならない。</li><li>保護者の送迎時の交通マナー及びスマートフォンの利用は、家庭の協力を求め対応を検討したい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>ゴミの分別が徹底されていない場所 (体育館、各職員室、部活動) に対して、ゴミ箱の仕分けの工夫や担当の先生方への説明等で具体的な個別の対策を立てる必要がある。</li></ul>		
<ul style="list-style-type: none"><li>校舎内外において、活動週間だけでなく、年間を通してマナーアップ向上ができるよう、生徒の自律、自己有用感の向上を図ることが大切である。</li><li>家庭の協力を得ながら、品位ある服装やマナーの遵守を推進しなければならない。</li><li>保護者の送迎時の交通マナー及びスマートフォンの利用は、家庭の協力を求め対応を検討したい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>ゴミの分別が徹底されていない場所 (体育館、各職員室、部活動) に対して、ゴミ箱の仕分けの工夫や担当の先生方への説明等で具体的な個別の対策を立てる必要がある。</li></ul>				

A 達成した B ほぼ達成した C 現状維持 D 現状より悪くなった

(様式 5)

8. 学校アクションプラン

平成30年度 氷見高校アクションプラン - 5 -	
重点項目	特別活動
重点課題	学校行事・部活動・及び各主体による地域連携活動のさらなる活性化
現 状	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校行事は、前年度の課題を参考にし、改善案も取り入れて生徒会執行部を中心に企画運営を行っている。その中で、全校生徒の参加意識や達成感をより高めていくために、生徒の意見を取り入れながら、生徒主体となるよう工夫して取り組んでいる。</li><li>・部活動は、全校生徒の約90%近くが加入している。部活動の休養日2日制の導入により、限られた時間の有効活用のために、明確な活動計画と集中した時間活用の工夫が求められる。</li><li>・ボランティア推進委員会を中心に家庭クラブやJRC部等とも連携し、地域のボランティア活動に積極的に取り組んでいる。校内ではエコキャップやコンタクトレンズの空ケースの回収を行っている。</li></ul>
達成目標	<ol style="list-style-type: none"><li>① 各学校行事に対する生徒の満足度として80%以上の達成を目指す。</li><li>② 部活動に積極的に取り組む意識や高い目標を持って参加する等、休養日を含めたメリハリのある部活動の取り組みを行い、満足度80%以上の達成を目指す。</li><li>③ 全校生徒がボランティア活動に1回以上は参加することを目指す。</li></ol>
方 策	<ul style="list-style-type: none"><li>・各行事の前に各種委員会の開催や生徒会便りの発行を行い、行事についての実施要項等を周知していく。また、行事後にアンケートを行い、生徒の達成感が高まるよう改善点を加え、次年度に活かすよう工夫する。</li><li>・3年生の引退時にアンケートを実施し、部活動に対する意識調査を行い、各部顧問に知らせ、活動に生かす。</li><li>・ボランティア推進委員会を中心にポスターの掲示や放送などを通し、全校生徒にボランティア活動への積極的な参加を呼びかける。</li></ul>
達 成 度	<ol style="list-style-type: none"><li>① 各行事に対する満足度 体育大会78%、 氷高祭93%</li><li>② 部活動に対する満足度 90% (3年生) 入部率83%</li><li>③ 今年度のボランティア活動の参加者 延べ人数 920名 (内訳 1年 349名 2年 317名 3年 254名)</li></ol>
具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"><li>① 各学校行事の事後のアンケートの結果、体育大会78%、氷高祭93%の生徒が満足したと答えている。</li><li>② 3年生に行った部活動に対する意識調査の結果、90%が部活動に満足していると答えた。</li><li>③ 今年度のボランティア活動の参加者は延べ920名であり、全校生徒が一人1回はボランティア活動に参加したことになる。</li></ol>
評価	<ol style="list-style-type: none"><li>① B</li><li>② A</li><li>③ A</li></ol>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・各部活動、ボランティア活動等で生徒が活躍しているのはすばらしい。</li><li>・ボランティア活動の実践は、できるだけ発表の機会を生徒に与え、生徒が自分の言葉で語り発信できることを期待したい。</li></ul>
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・各行事毎に事後アンケートを実施し、より多くの生徒が自主的・積極的に学校行事に携わるように企画や運営方法の改善を追求する。</li><li>・より多くの生徒が部活動に所属し、熱心に活動に取り組み、学習と部活動を両立させ、充実した学校生活を送られるように指導する。</li><li>・ボランティア活動に参加する機会を増やす。ボランティア後の記録や感想を残し、振り返りを大切にし、次回の活動に生かせるようにする。</li></ul>

A 達成した B ほぼ達成した C 現状維持 D 現状より悪くなった

(様式 5)

8. 学校アクションプラン

平成30年度 氷見高校アクションプラン - 6 -

重点項目	情報発信及び家庭との連携																
重点課題	適切な情報発信及び保護者との情報共有の推進																
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭との連携を図るために、PTA活動への積極的な参加を呼びかけている。PTA総会の参加者は、一昨年に、総会後の学年懇談会を実施して以来増えており、平成29年度の保護者の参加率は、38%（4年前の2.17倍）となっている。</li> <li>学校と保護者との情報共有手段として、「氷高ほっとメール」（教育情報メール）の登録を毎年保護者に呼びかけている。保護者の「氷高ほっとメール」に対する理解は深まり、登録率も増加傾向にある。</li> </ul>																
達成目標	① PTA活動への保護者の参加率の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>全学年PTAの40%以上</li> <li>進路に関するPTA研修会への保護者の参加率80%以上(第3学年)</li> </ul>	② 氷高ほっとメール（教育情報メール）の保護者登録率の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>90%以上</li> </ul>															
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者に関心が高いと思われる企画や情報を用意し、総会や研修会・学年懇談会に参加したいという気持ちを持ってもらえるように工夫する。</li> <li>行事の開催案内の配布、メールでの情報配信を行うことで、PTA活動への参加を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学前の合格者説明会で、「氷高ほっとメール」の利用価値が大きいことをしっかり伝え、保護者の登録を促す。</li> <li>入学以降は、特に1学期を登録推進期間として引き続き保護者に登録を勧める。</li> <li>全体への一斉メール以外に、学年や学科に特化した必要な情報も配信することで、利用価値を高める。</li> </ul>															
達成度	① ・38.5% ・71.6%	② 89.2%															
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月12日のPTA総会、学年懇談会への参加を促すために、HP上で開催内容を知らせ、当日は学校行事等写真のスライドショーを実施した。</li> <li>学年懇談会参加者は全校で292人。</li> <li>3年生普通科の学年研修会は105人。68.2%。専門学科は87人。76.3%。3学年全体では192人。71.6%。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学説明会や入学式の当日、新入生の保護者が多く来校された機会に登録をお願いした。</li> <li>保護者会で利用状況のアンケートを実施し、意識調査とともに必要性をアピールした。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>登録状況</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全体</td> <td>79.3%</td> <td>89.2%</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>88.2%</td> <td>92.1%</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>85.0%</td> <td>89.8%</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>64.9%</td> <td>85.8%</td> </tr> </tbody> </table>	登録状況	H29年度	H30年度	全体	79.3%	89.2%	1年	88.2%	92.1%	2年	85.0%	89.8%	3年	64.9%	85.8%
登録状況	H29年度	H30年度															
全体	79.3%	89.2%															
1年	88.2%	92.1%															
2年	85.0%	89.8%															
3年	64.9%	85.8%															
評価	C <ul style="list-style-type: none"> <li>日程や時間帯の工夫が必要。</li> <li>保護者が興味・関心もてる研修内容を検討したい。</li> </ul>	B <ul style="list-style-type: none"> <li>学年ごとの加入率が年々高くなり、必要性を感じる保護者が増えていると思われる。</li> <li>アンケートによると、ほっとメールに満足している保護者が多い。</li> </ul>															
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年生普通科の学年研修会の参加率が今回低かったことについて、保護者の受験に対する意識や生徒の進路決定との関連から検討が必要であり、改善を要するのではないかと。</li> </ul>																
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA活動の活性化を図る。</li> <li>授業公開、学年研修会、PTA総会との同日開催等、保護者が参加しやすい日程及び内容の検討が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登録者のうち、パソコンからの一斉メールを受け付けない設定になっているため、約20件の不着がある。毎回、生徒を通じて設定変更をお願いしているが、なかなか改善されない現状がある。</li> </ul>															

A 達成した B ほぼ達成した C 現状維持 D 現状より悪くなった